

## 西和賀

# 学生演劇を支援

## あすから 拠点化へ環境づくり 冬季合宿

演劇に励む大学生を全国から受け入れて地域活性化につなげようという学生演劇合宿事業が14日から、西和賀町内の演劇用ホールを中心に実施される。2013年に続き3回目の冬季合宿。学生演劇をバックアップすることで、宿泊施設をはじめ町内への経済波及効果が期待される。演劇の町をアピールし、将来的な学生演劇の拠点化にもつなげたいと考えた。



町内には銀河ホールという演劇専用ホールがあり、地域演劇祭開催や高齢者演劇公演など演劇を通じた町づくりが盛んな一方、温泉を生かした旅館が多数立ち並ぶ観光のまちの側面もある。関係者が集まり、町内にある資源をつなぎ合わせ地域活性化に取り組みようと、演劇学生に声掛けし町内で合宿してもらう事業に、12年3月初めて取り組んだ。

受け入れ母体は、湯田温泉峡旅館組合をはじめ町や劇団ぶどう座、町観劇会など。合宿の成果発表の場として開かれた13年2月の学生演劇祭「銀河ホール

光協会、演劇代表者などで組織する実行委員会。開催日は14、23日の10日間。全国から大学生やそのOBら20人余りが参加予定。学生らは一定期間宿泊しながら町内に滞在し、同町上野々の銀河ホールを拠点に作品制作や稽古に励む。

16、19の両日には、銀河ホールを会場に劇づくりのワークショップ(W.S.)を開催。一般の参加者が、短い場面づくりなどに挑戦しながら表現が生まれる瞬間を体験できる。また、合宿の仕上げとして22日に銀河ホールで「学生演劇祭2014」を開催し、演劇2作品とダンス1作品を上演する。

## 動物のため役立てて

### 江釣子小 救済団体へ義援金贈る

ものづくりを通じて伝統産業と障害者の現状について理解を深めようと、障害者と南部鉄瓶のアクセサリ制作に取り組みしてきた北上市立江釣子小学校(川村淳校長、児童706人)の5年生は12日、東日本大震災で被災した動物を救済している金ヶ崎町の「3・11命懸会」(村田忍代表)に役立ててほしいと、

義援金として13万6900円を贈った。同市立江釣子の同校体育館で行われた義援金の贈呈式には、村田代表と災害救助犬のレイラが訪れたほか、5年生111人と取り組みに参加した市内の障害者ら約40人が参加。児童代表の高橋仁君が「動物たちのために役立ててください」と、



君高橋の児童代表を渡す手

この取り組みは、障害者や地域の伝統産業に理解を深めてもらうと、市障害者団体連絡会が主催し、県社会福祉協議会いわて障がい福祉復興支援センター、北上アピリティーセンターなどの協力を得て実施。2013年11月に5年生が市内のさまざまな障害を持つ人たちと南部鉄瓶の破片を使ったアクセサリ作り

持った北上市立江釣子小の児童代表